

『一年間をまとめるとき』

校長 鈴木 康史

春一番が吹き、もうすぐジャブ池に蛙が産卵にやってきそうな日もある頃となりました。令和4年度もあとわずかとなって、この一年間のまとめにかかっているところです。先日の土曜参観には多くの皆様にご来校いただきありがとうございました。この一年間、制限の続く中でしたが、本校の教育活動にご協力をいただき、ありがとうございました。

コロナ 2019 への対応をしてきた3年間ですが、3月13日よりマスクの着用が個人の判断になり、5月8日からはコロナ感染症が5類扱いに変更されると報道されています。一方で、学校では3月末までは現行のガイドラインをベースにすることを保ち、卒業式や屋外、対話のない活動などについて、対応の緩和をしていくこととなっています。4月以降のガイドラインの変更は新学期にお知らせすることになりそうです。

働き方改革などの様々な社会の変化、2年度からの学習指導要領の完全実施に加え、そこにやってきたコロナ 2019 は、様々な変化と見直し、本来の意味を考え直す機会となったように思います。この3年間に入学した児童や保護者は、通学路や集会に触れる機会も減り、プールの活動もとても限られたものでした。まもなく卒業式の練習が始まりますが、小学校での経験が、中学校以降の卒業式や入社式、授賞式などの一生分の基礎を学ぶ機会につながっていると思っています。従前のように5年生は当日参加はしませんが、一度だけ予行練習を見学することになっています。

今後来る社会の変化に向かうなかで、店などでのイタズラ行為に対し、企業側が本人や保護者に賠償責任をどう事例が多く流れています。よく考えず自らネット上に動画を上げてしまう問題に思いますが、賠償額が大きくなる影響を考えると自己責任の知識と意識の低さがあるように思います。スマホ等を持つ人が多いということは、いつでも町中に監視カメラがあるようなものです。12才以下にはアカウントが発行されない（※学校の Google アカウントには学習用特例であり、制限がかかっています）ので、子どもが家庭で使っているスマホやタブレットを見ているのは皆保護者のアカウントです。そこで生じる違法動画の UP、著作権違反、肖像権の侵害、課金など、すべて子どもに与えた責任が保護者に問われます。子どもたちにも責任を意識させていくと同時に、保護者も認識を深めていく必要が加速しているようです。マスクの着用も自己判断ですので、花粉症等で外せない事情も、着けないという事情も、両者を理解し相手を尊重することが大切です。どこまでが自己判断で、自己責任になるかを考える時が来ています。

変化の流れでは、GIGA 端末の早急な導入での混乱もありましたが、学びの記録や考えの共有のツールとして定着しつつあります。しかし、学校で学ぶ意義を問い直すと、「主体的に学ぶ態度」の評価をするときの「他者と関わって学ぶ」ことこそが学校に集わねばできないことと思います。

※マーチングバンドについて

さまざまな見直しの中で、マーチングバンドがこの先2年の移行期間を経て、学校の「特設クラブ」から保護者や地域のバンドへの意向を図ります。